

(1) 「よくわかる授業論」から

板書とは、黒板に書くことで、指導内容の提示説明、要約整理と授業過程の可視化、生徒の思考活動の触発組織化等により、生徒の学習を援助すること。

- ・体系的板書：授業内容の要点を整然と体系的にまとめて書く。(生徒との問答、反応に応じて板書)
- ・表現的板書：生徒の発言等の要点をまとめて書く。(新たな発言触発、根拠明確化、つながり発見)
- ・構成的板書：授業の進行にしたがって全体像を明らかにして行く。生徒の集団思考を組織。
- ・意図的に見通しをもって板書。何を、どの段階で、どこに、いつノートさせる。
- ・板書の構造化。教師の立ち位置。書く速さ、大きさ。他の教具(模造紙、ICT)との組み合わせ。

(2) ネット資料「CLARINET」から

板書計画とは、どの時点で、何を、どの位置に、どれくらいの大きさで、何色のチョークで書くか等をあらかじめ計画しておくこと。

- ・主要発問、学習活動の目標は必ず板書。
- ・生徒がノートすることで、的確な学習活動ができるもの(課題の確認・共有・焦点化など)を板書。
- ・生徒が板書する機会も設定。
- ・まとめは要点に絞り、番号・記号・箇条書きで整理。
- ・生徒の読みやすさを優先し、単語・文節を分断しない、助詞、助動詞は行頭に置かない。
- ・生徒と別行動の板書はしない。生徒の作業の適切な指導・支援に徹すること。

(3) ネット資料「教員 STATION」から

板書計画とは、どの時点で、何をどの位置に、どれくらいの大きさで、何色のチョークで書くかなどを考慮しておくこと。

- ・板書を見ただけで本時の学習の要点がわかる。
- ・学習の内容を思考の過程に沿って、構造的に整理。
- ・生徒がノートを取りやすく、復習しやすい。
- ・数学では、黒板を 2 分割か 3 分割
- ・チョークは、白、黄色(キーワード、キーセンテンス)、その他(強調のライン、囲み)
- ・貼物、立つ位置、書くスピード、補助黒板の活用に注意

(4) 自分の意見

板書については、明記してある最近の書物があまりない。ネットも含めて、要点はほぼ同じ。ICT など、時代の流れも考慮して、生徒の主体的・対話的で深い学びを促進するように自分なりに工夫する志向性が重要。

- ・狙いが明確になっていて、簡潔に整理されていること。
- ・主体的・対話的で深い学びを触発するものになっていること。
- ・ICT との役割分担を心がけること。

(5) 出典(文献名、url 等)

石井英伸(2007)。「板書法」、田中耕治編『よくわかる授業論』。pp.102-103

文部科学省初等中等教育局国際教育課(2009 以前)。「CLARINET 5 板書」。

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/003/002/005.htm 2017/03/08 確認)

教員 STATION(2015)。「教員志望者必見!! 子どもの反応が変わる? 板書計画十か条」。

(<http://www.kyoushi.jp/entries/3185> 2017/03/08 確認)

- ・数式は、 $y=ax^2+bx+c$ でもよい。 $y = ax^2 + bx + c$ でも、もちろんよい。
- ・タイトル、ファイル名、メールタイトルの不備は減点
- ・項目、要約、箇条書き(3~5 項目)の不備、不足、超過は減点
- ・空白 8 行以上は減点、(1)(2)(3)の出典も必ず書く。
- ・提出ファイル名は、「教方 m 第 2 回「テーマ」(2 班 X14001 名前).docx」